



タイトル「**2024年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT2601S		
科目名	基礎ゼミ		
担当教員	永沼 淳子		
対象学年	2年,3年,4年	開講学期	前期
曜日・時限	火 3		
講義室	2305	単位区分	必
授業形態	演習・ゼミナール	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門展開科目		
科目小分類	専門統合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1-E 〔学識・専門技能〕 専門分野に関する理論知と実践知を獲得し実践することができる。 DP4-F 〔探求力・課題解決力〕 問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 DP3-H 〔理論的思考力・批判的思考力〕 理路整然とした思考を備えつつ、偏りを排除するための内省をもって、問題・課題を合理的に解決することができる。 DP4-I 〔理解力・分析力〕 文書表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 DP6-K 〔表現力・対話力〕 文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 E1 学識と専門技能（30%） F1 探求と論拠（30%） H1 論理的思考（20%） H2 批判的思考（5%） I1 理解・分析と読解（5%） K2 オーラル・コミュニケーション（10%）		
教員の実務経験	特にありません。		
成績ターゲット区分	■成績ターゲット 能力開発の目標ステージとの対応 2 進行期 ～ 3 発展期		
科目概要・キーワード	危機管理の研究領域の中から、学生個人がそれぞれ1つの研究テーマを構築するのに必要なスキルと知識を統合的に学ぶために、危機管理に関する基礎的な演習を行います。危機管理学の専門基幹科目における法学系科目、又は、専門展開科目における災害マネジメント、パブリックセキュリティ、グローバルセキュリティ若しくは情報セキュリティに属する危機管理系科目を担当する教員が「個別クラス」を担当し、教員の研究領域の特性に即して研究手法等を指導します。2年次後期以降のゼミナールにおける、より専門的な研究活動への橋渡しの意味をもつ科目となります。本科目では、研究のテーマ決定や研究計画の検討からはじめて、研究を進め、その成果をプレゼンテーションによって表現することまでを行うことを目標とします。授業形態は演習形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 ■キーワード 危機管理、研究テーマの構築、ゼミナールへの橋渡し		

授業の趣旨	■副題 社会問題を掘り下げること、日常生活にあるリスクを認識するとともに、法律の「使い方」を学びます。 ■授業の目的 家族や相続の在り方、経済格差から生じる犯罪、環境悪化など、身近な問題を学ぶことで、リーガルマインドを涵養するとともに法律を用いた紛争解決能力を身につけることを目的とします。 ■授業のポイント 危機管理に関する研究テーマの探求、研究手法の会得、研究成果の発表の各過程を通じて、①探求力・課題解決力、②学識・専門技能、③論理的思考力・批判的思考力、④理解力・分析力、⑤表現力・対話力の各コンピテンスの開発を行うことを目的とします。将来のキャリアを見据えた学びにおいて、⑥自己の特性を理解し社会に貢献しようとする姿勢、⑦倫理観と公共心、⑧省察力の各観点について自覚を持つことも望まれます。	
総合到達目標	一般総合目標【GIO】 法律を用いた紛争解決能力を身につけるために、実社会の紛争解決記録である裁判例を調査・研究することで、法的思考を身につける。 個別行動目標【SBOs】 1.書籍・データベースから関係する資料を調査・収集できる。(第2回～第15回) 2.民法の基礎知識を修得し、判例の内容に照らして考察できる。(第2回～第15回) 3.他の学生と協力し、資料調査・報告資料作成および解説を行うことができる。(第2回～第15回) 4.現代社会の紛争に対し、法的思考を用いて解決方法を導き出せる。(第2回～第15回)	
成績評価方法	■個人またはグループワークでの判例研究に関する報告への貢献度（50％）適用ルーブリックF1・H1・K1 (評価の観点)判例の事案を理解したうえで、問題点の解決方法を適切な言葉で理論的に説明できるかを評価します。 (フィードバックの方法) 報告後に解説を行います。 ■個人報告者または他のグループの報告に対し、有益な質問をするなどの参加度（50％）適用ルーブリックE1・H2・K1 (評価の観点)法的問題点を理解し、批判的思考による考察の結果を理論的に説明できるかを評価します。 (フィードバックの方法) 報告後に解説を行います。	
履修条件	特にありません。	
履修上の注意点	特にありません。	
授業内容	回	内容
	1	①授業テーマ ガイダンス(全体のテーマ、授業の進め方、成績評価の説明、グループ分け) ②授業概要 授業のテーマ内容、スケジュール、成績評価について確認した後、自己紹介し、グループ分けをすることで、コミュニケーションに重要な言葉選びができるようになる(K2)。 ③予習（60分） シラバスを確認した後、危機管理学部のホームページから図書館のページを検索し、内容を確認する。 ④復習（60分） 最高裁判所のホームページから「大審院昭和10.10.5判決民集14巻1965頁(宇奈月温泉事件)」を検索し、主文を読む。
	2	①授業テーマ 研究対象になる判例の選択 ②授業概要 個人またはグループごとに研究する事件を選択し、次回以降の報告について分担を決定する(B1)(F1)。文献収集のために協力して電子ジャーナルによる検索・資料作成を体験することで、コミュニケーションに重要な言葉選びができるようになる(K2)。 ③予習（60分） 最高裁判所のホームページから「最三小決平成25年12月10日(性同一性障害者の親子関係)」を検索し、主文を読む。 ④復習（60分） 担当する判例について、最高裁判所のホームページを検索し、主文を確認する。

3	①授業テーマ 個人またはグループごとに報告に向けた調査とその整理を行う。 ②授業概要 個人またはグループに分かれて担当する事件の資料を精読することで、事案に関する法制度を理解し(E1)、論点を発見することができる(F1)。さらに、論点の説明と解決方法を導くために論理的に考え(H1)、その知見を基に報告資料作成する過程で、グループ内での検討からコミュニケーション能力が身につく(k2)。 ③予習（60分） 担当する事件について、電子ジャーナルを検索し、関係する資料を探す。 ④復習（60分） 授業内で収集した資料の整理を行う。
4	①授業テーマ 個人またはグループごとに報告に向けた調査とその整理を行う。 ②授業概要 個人またはグループに分かれて担当する事件の資料を精読することで、事案に関する法制度を理解し(E1)、論点を発見することができる(F1)。さらに、論点の説明と解決方法を導くために論理的に考え(H1)、その知見を基に報告資料作成する過程で、グループ内での検討からコミュニケーション能力が身につく(k2)。 ③予習（60分） 担当する事件について、電子ジャーナルを検索し、関係する資料を探す。 ④復習（60分） 授業内で収集した資料の整理を行う。
5	①授業テーマ 個人またはグループごとに報告に向けた調査とその整理を行う。 ②授業概要 個人またはグループに分かれて担当する事件の資料を精読することで、事案に関する法制度を理解し(E1)、論点を発見することができる(F1)。さらに、論点の説明と解決方法を導くために論理的に考え(H1)、その知見を基に報告資料作成する過程で、グループ内での検討からコミュニケーション能力が身につく(k2)。 ③予習（60分） 担当する事件について、電子ジャーナルを検索し、関係する資料を探す。 ④復習（60分） 授業内で収集した資料の整理を行う。
6	①授業テーマ 第1回報告 ②授業概要 個人またはグループごとに担当する事件について資料を作成したうえで報告を行うことで、蓄えた知識を適宜取り出すこと(E1)や論点について法的根拠を示しながら説明できるようになる(F1)(K2)。報告後、他のグループからの質問に応えることで、新たな問題の特定と解決に向けた仮説を立てたうえで(F2)、理論的に論点の整理と解決方法を提示できるようになる(H1)。 ③予習（60分） 担当する事件について、報告資料を作成し、適切な説明をするための準備を行う。 ④復習（60分） 報告に対する質問や指摘の論点を整理し、次回の報告で対応できるようにする。
7	①授業テーマ 個人またはグループごとに報告に向けた調査とその整理を行う。 ②授業概要 個人またはグループに分かれて担当する事件の資料を精読することで、事案に関する法制度を理解し(E1)、論点を発見することができる(F1)。さらに、論点の説明と解決方法を導くために論理的に考え(H1)、その知見を基に報告資料作成する過程で、グループ内での検討からコミュニケーション能力が身につく(k2)。 ③予習（60分） 担当する事件について、電子ジャーナルを検索し、関係する資料を探す。 ④復習（60分） 授業内で収集した資料の整理を行う。
8	①授業テーマ 個人またはグループごとに報告に向けた調査とその整理を行う。 ②授業概要 個人またはグループに分かれて担当する事件の資料を精読することで、事案に関する法制度を理解し(E1)、論点を発見することができる(F1)。さらに、論点の説明と解決方法を導くために論理的に考え(H1)、その知見を基に報告資料作成する過程で、グループ

	内での検討からコミュニケーション能力が身につく(k2)。 ③予習（60分） 担当する事件について、電子ジャーナルを検索し、関係する資料を探す。 ④復習（60分） 授業内で収集した資料の整理を行う。
9	①授業テーマ 個人またはグループごとに報告に向けた調査とその整理を行う。 ②授業概要 個人またはグループに分かれて担当する事件の資料を精読することで、事案に関する法制度を理解し(E1)、論点を発見することができる(F1)。さらに、論点の説明と解決方法を導くために論理的に考え(H1)、その知見を基に報告資料作成する過程で、グループ内での検討からコミュニケーション能力が身につく(k2)。 ③予習（60分） 担当する事件について、電子ジャーナルを検索し、関係する資料を探す。 ④復習（60分） 授業内で収集した資料の整理を行う。
10	①授業テーマ 第2回報告 ②授業概要 個人またはグループごとに担当する事件について資料を作成したうえで報告を行うことで、蓄えた知識を適宜取り出すこと(E1)や論点について法的根拠を示しながら説明できるようになる(F1)(K2)。報告後、他のグループからの質問に応えることで、新たな問題の特定と解決に向けた仮説を立てたうえで(F2)、理論的に論点の整理と解決方法を提示できるようになる(H1)。 ③予習（60分） 担当する事件について、報告資料を作成し、適切な説明をするための準備を行う。 ④復習（60分） 報告に対する質問や指摘の論点を整理し、次回の報告で対応できるようにする。
11	①授業テーマ 個人またはグループごとに報告に向けた調査とその整理を行う。 ②授業概要 個人またはグループに分かれて担当する事件の資料を精読することで、事案に関する法制度を理解し(E1)、論点を発見することができる(F1)。さらに、論点の説明と解決方法を導くために論理的に考え(H1)、その知見を基に報告資料作成する過程で、グループ内での検討からコミュニケーション能力が身につく(k2)。 ③予習（60分） 担当する事件について、電子ジャーナルを検索し、関係する資料を探す。 ④復習（60分） 授業内で収集した資料の整理を行う。
12	①授業テーマ 個人またはグループごとに報告に向けた調査とその整理を行う。 ②授業概要 個人またはグループに分かれて担当する事件の資料を精読することで、事案に関する法制度を理解し(E1)、論点を発見することができる(F1)。さらに、論点の説明と解決方法を導くために論理的に考え(H1)、その知見を基に報告資料作成する過程で、グループ内での検討からコミュニケーション能力が身につく(k2)。 ③予習（60分） 担当する事件について、電子ジャーナルを検索し、関係する資料を探す。 ④復習（60分） 授業内で収集した資料の整理を行う。
13	①授業テーマ 個人またはグループごとに報告に向けた調査とその整理を行う。 ②授業概要 個人またはグループに分かれて担当する事件の資料を精読することで、事案に関する法制度を理解し(E1)、論点を発見することができる(F1)。さらに、論点の説明と解決方法を導くために論理的に考え(H1)、その知見を基に報告資料作成する過程で、グループ内での検討からコミュニケーション能力が身につく(k2)。 ③予習（60分） 担当する事件について、電子ジャーナルを検索し、関係する資料を探す。 ④復習（60分） 授業内で収集した資料の整理を行う。

	14	①授業テーマ 第3回報告 ②授業概要 個人またはグループごとに担当する事件について資料を作成したうえで報告を行うことで、蓄えた知識を適宜取り出すこと(E1)や論点について法的根拠を示しながら説明できるようにする(F1)(K2)。報告後、他のグループからの質問に応えることで、新たな問題の特定と解決に向けた仮説を立てたうえで(F2)、理論的に論点の整理と解決方法を提示できるようにする(H1)。 ③予習(60分) 担当する事件について、報告資料を作成し、適切な説明をするための準備を行う。 ④復習(60分) 報告に対する質問や指摘の論点を整理し、次回の報告で対応できるようにする。
	15	①授業テーマ まとめ ②授業概要 個人またはグループごとに学修したことについて検討することで、蓄積した法知識の取り出し(E1)、論点について理論的に説明することができる(F1)(H1)。 ③予習(60分) 報告に対する質問や指摘の論点を整理する。 ④復習(60分) 担当した判例の報告資料と他のグループの報告資料に目を通し、論点を整理する。
関連科目	■演習系科目としては、「自主創造の基礎1・2(RMGT1215)(RMGT1216)」・「危機管理基礎演習Ⅱ(RMGT2602)」・「ゼミナールⅠ～Ⅳ(RMGT4601～4604)」・「危機管理特殊研究1～4(RMGT4611～4614)」と関連します。とくに、「ゼミナールⅠ～Ⅳ(RMGT4601～4604)」への橋渡しの意味をもちます。 ■講義科目については、法学概論(RMGT1401S)・民法Ⅰ(RMGT2341)・民法Ⅱ(RMGT2342)・民法Ⅲ(RMGT2343)と関連します。	
教科書	特にありません。	
参考書・参考URL	授業中に適宜指示します。	
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 第1回講義(ガイダンス)でお知らせします。 ■オフィスアワー 第1回講義(ガイダンス)でお知らせします。それ以外の時間帯を希望する場合は、事前にメール等で予約をすることにより対応します。	
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント70%:パブリックセキュリティ10%:グローバルセキュリティ10%:情報セキュリティ10% ■危機管理学と法学とのバランス 危機管理学20%:法学80%	

